

書 写

I 教科、種目の観点

資料作成に当たっては、共通観点の他に、学習指導要領（平成29年3月）に示された各教科の目標や内容等に即して検討し、教科独自の観点を定めた。

1 教育基本法の理念や長崎県教育方針の趣旨・内容を踏まえて、豊かな人間性の育成を図る上での特長		
共通 観 点	(1)	教科の特質に応じて、「教育の目的」及び「教育の目標」の達成に資する内容、構成となっているか。
	(2)	ふるさと長崎の伝統・文化や歴史、自然について理解を深める学習に生かせる題材が扱われているか。
2 学習指導要領の目標や内容等を踏まえて、確かな学力の育成を図る上での特長		
共通 観 点	(1)	基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得することができるよう工夫されているか。
	(2)	知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されているか。
	(3)	主体的に学習に取り組む態度を身に付けることができるよう工夫されているか。
教科 独 自 観 点	(4)	各教科等の学習活動や日常生活に生かせる書写の能力を育成することができるよう工夫されているか。
	(5)	毛筆の指導は、硬筆の能力の基礎を養うことができるよう工夫されているか。
	(6)	硬筆と毛筆の分量は、適切に配慮されているか。
3 学習効果や使いやすさ、見やすさ（ユニバーサルデザイン）等の観点からの表記・表現や体裁の特長		
共通 観 点	(1)	文章は、分かりやすく、質・量ともに適切な記述となっているか。
	(2)	写真、挿絵、図表などは、学習意欲を高めるとともに、学習内容との関連や学習効果に十分配慮されているか。
	(3)	レイアウトや色彩、文字の大きさ、挿絵の活用、紙質、製本等については、適切に配慮されているか。

II 選定資料利用上の留意点

- 資料の作成に当たっては、設定した観点ごとに、特に目立った事柄を取り上げること。
- 利用に際しては、全体を通して総合的に判断し、各教科書の特色をとらえるとともに、地域の実態、その他の条件を考慮して、適正な採択のための資料とすること。
- 前記の観点と次表の観点、具体項目とは、対応させて読み取ること。

観点		発行者	東 書	三省堂
1 教育基本法の理念や長崎県教育方針の趣旨・内容を踏まえて、豊かな人間性の育成を図る上での特長				
(1)	教科の特質に応じて、「教育の目的」及び「教育の目標」の達成に資する内容、構成となっているか。		「文字といっしょに」で文字の歴史や用具・用材を知るコラムを設けたり、書き初めの単元を各学年に設けたりすることで、伝統的な文字文化を尊重し継承しようとする態度を養えるよう配慮している。	「書いて身につけよう」で日常的に使う言葉を練習したり、文字に関わる仕事に就く人を紹介したりすることで、文字文化への認識を深め、社会生活で生きる力を育むことができるよう配慮している。
(2)	ふるさと長崎の伝統・文化や歴史、自然について理解を深める学習に生かせる題材が扱われているか。		巻末資料「書写活用ブック」に、葉書の表書きの例として「長崎市」が取り上げられており、同ページ内の都道府県名一覧にも「長崎」の文字が行書の手本として掲載されている。	2年「書いて身につけよう」には、日本地図を用いて47都道府県名の行書の手本が一覧として示されており、「長崎」の行書の手本は、県の特産品であるカステラのイラストとともに掲載されている。
2 学習指導要領の目標や内容等を踏まえて、確かな学力の育成を図る上での特長				
(1)	基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得することができるよう工夫されているか。		「書写のかぎ」において、単元の学習事項を焦点化するとともに、自己を振り返る「まとめ」と「書写テスト」を設けることで、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得することができるよう工夫されている。	「書き方を学ぼう」において、学習のポイントを明確に提示したり、学びの定着を図る「書いて身につけよう」を設けることで、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得することができるよう工夫されている。
(2)	知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されているか。		「生活に広げよう」において、学習で身に付けた知識・技能を生活の場でどのように活用できるかを考える活動を設定することで、思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されている。	「書いて身につけよう」では、日常や社会生活で使う言葉や書き方を硬筆で練習する活動を設けることで、実践的な力の定着を図りつつ、思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されている。
(3)	主体的に学習に取り組む態度を身に付けることができるよう工夫されているか。		「見つけよう」「確かめよう」「生かそう」の3つのステップで単元を構成し、学習過程を統一することで、見通しをもって、主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。	教科書冒頭で「教材の構成」や「学習の流れ」について解説したり、各教材に「目標」「振り返ろう」の欄を設けることで、見通しをもって、主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。
(4)	各教科等の学習活動や日常生活に生かせる書写の能力を育成することができるよう工夫されているか。		「生活に広げよう」において、手紙や依頼状の書き方など、生活場面に連動した題材を提示することで、身に付けた書写の力を日常生活や社会生活に生かすことができるよう工夫されている。	「やってみよう」や巻末の「日常の書式」において、新聞や手紙の書き方など、生活に関連した教材を提示することで、身に付けた書写の力を日常生活や社会生活に生かすことができるよう工夫されている。
			巻末資料「さまざまな書式」では、ポスターやグラフ、新聞やリーフレットなど他教科との関連教材を提示することで、目的に応じて各教科等の学習活動に活用できるよう工夫されている。	「書いて身につけよう」や「やってみよう」において、レポートや新聞の書き方など、他教科との関連教材を提示することで、学んだことを生かす学習ができるよう工夫されている。
(5)	毛筆の指導は、硬筆の能力の基礎を養うことができるよう工夫されているか。		硬筆で課題を発見し、毛筆で課題を確認し、硬筆でほかの文字に生かすという展開にすることで、学習内容の定着を図るとともに、硬筆の基本的な技能を習得できるよう工夫されている。	毛筆学習のあとに、硬筆で確かめる「書いて身につけよう」を設けることで、学習内容の定着を図るとともに、硬筆の基本的な技能が身に付くよう工夫されている。
			巻末に「硬筆字典」を配置し、常用漢字や人名漢字、行書の部分の形や仮名など実生活に関連した文字を提示することで、日常生活に生かす硬筆の学習ができるよう工夫されている。	巻末「書写の広場」において、文房四宝や書の古典、常用漢字表を提示することで、実生活の中で必要となる書式を確認し、日常生活に生かす硬筆の学習ができるよう工夫されている。
(6)	硬筆と毛筆の分量は、適切に配慮されているか。		毛筆の前後に硬筆を配置したり、適宜硬筆のまとめページを設けたりすることで、毛筆と硬筆がほぼ均等な配分となるよう配慮されている。	毛筆の後に硬筆で書いて学びを確かなものにする活動を配置することで、毛筆と硬筆がほぼ均等な配分になるよう配慮されている。
			配当時間内に、各学年で求められる資質・能力を着実に身に付けられるよう、単元・教材を精選することで、硬筆と毛筆をバランスよく学習できるようにしている。	発達段階に即して、系統的に学習できるような単元や教材の配列にすることで、硬筆と毛筆をバランスよく学習できるようにしている。
3 学習効果や使いやすさ、見やすさ（ユニバーサルデザイン）等の観点からの表記・表現や体裁の特長				
(1)	文章は、分かりやすく、質・量ともに適切な記述となっているか。		限られた時間内で効果的・効率的に文字を整えて書く力を付けることができるよう、学習のポイントを「書写のかぎ」として簡潔にまとめ、明確化することで、理解しやすくなるよう工夫されている。	読みやすい文体や改行などの工夫を行うとともに、発達段階に応じた分かりやすい用語や表現を用いて解説することで、理解しやすくなるよう工夫されている。
(2)	写真、挿絵、図表などは、学習意欲を高めるとともに、学習内容との関連や学習効果に十分配慮されているか。		「身の回りの文字の目的と工夫」などでは、様々な字体が描かれた身の回りにある事物の写真や作品を掲載することで、興味、関心を引き出し、学習意欲を高めることができるよう配慮されている。	挿絵や図版を適所に配置するとともに、「身の回りの文字」などでは、写真やイラストを用いて文字文化の変遷を示すことで、興味、関心を引き出し、学習意欲を高めることができるよう配慮されている。
(3)	レイアウトや色彩、文字の大きさ、挿絵の活用、紙質、製本等については、適切に配慮されているか。		毛筆教材は見開き2ページで構成され、右ページに目標と振り返り、左ページに毛筆教材文字を配置することで、見通しをもって学習することができるよう配慮されている。	毛筆教材は見開き2ページで構成され、右ページに学習のポイント、左ページに毛筆教材文字を配置することで、見通しをもって学習することができるよう配慮されている。

観点		発行者	教 出	光 村
1 教育基本法の理念や長崎県教育方針の趣旨・内容を踏まえて、豊かな人間性の育成を図る上での特長				
(1)	教科の特質に応じて、「教育の目的」及び「教育の目標」の達成に資する内容、構成となっているか。	朱墨の図版を大きく掲載して行書の運筆の動作を体感したり、「学習を生かして書く」で目的に応じて書く活動を設けたりすることで、書く技能や文字文化を体験的に学ぶことができるよう配慮している。	「全国フォント見つけ隊」や「全国書き初め調べ隊」をはじめ、身の周りの文字を見つめ直す教材を随所に配置することで、文字文化の豊かさに触れ、理解を深めることができるよう配慮している。	
(2)	ふるさと長崎の伝統・文化や歴史、自然について理解を深める学習に生かせる題材が扱われているか。	3年「多様な表現による文字」に島原城の石碑の写真が掲載されており、また、巻末の「書式の教室」で「都道府県名一覧表」として行書の手本が示されている中に「長崎」の文字が掲載されている。	3年「全国文字マップ」に長崎市平和公園の「平和祈念像」のレリーフが掲載されており、また、巻末の「日常に役立つ書式」に「都道府県行書一覧」として「長崎」の文字の手本が掲載されている。	
2 学習指導要領の目標や内容等を踏まえて、確かな学力の育成を図る上での特長				
(1)	基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得することができるよう工夫されているか。	「考えよう」で得た知識を書いて確かめたり、単元末に「学習を生かして書く」を設け、学びを振り返ったりすることで、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得することができるよう工夫されている。	全教材に「学びのカギ」を設けて、学習のポイントを示すとともに、硬筆を練習するための別冊「書写ブック」を活用することで、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得することができるよう工夫されている。	
(2)	知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されているか。	「学習を生かして書く」「学校生活に生かして書く」では、習得した力を学習活動や日常生活等の場面で活用する機会を設けることで、思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されている。	「日常に役立つ書式」において、書写で身に付けた力を手紙やレポートといった日常生活に生かせるような活動を設定することで、思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されている。	
(3)	主体的に学習に取り組む態度を身に付けることができるよう工夫されているか。	「目標」「考えよう」「生かそう」「振り返ろう」のアイコンによって、学びのプロセスを明確化することで、見通しをもって、主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。	各教材において、「考えよう」「確かめよう」「生かそう」という展開を設定し、学習の流れをひと目で分かる構成にすることで、見通しをもって、主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。	
(4)	各教科等の学習活動や日常生活に生かせる書写の能力を育成することができるよう工夫されているか。	巻末の「書式の教室」において、手紙や葉書、電子メールや小包伝票などの教材を提示することで、身に付けた書写の力を日常生活や社会生活に生かすことができるよう工夫されている。	「行書を活用しよう」や巻末の「日常に役立つ書式」において、手紙や葉書、送り状などの教材を提示することで、身に付けた書写の力を日常生活や社会生活に生かすことができるよう工夫されている。	
		「学校生活に生かして書く」や巻末の「書式の教室」において、レポートやエメール、願書の書き方など、他教科との関連教材を提示することで、各教科等の学習活動に活用できるように工夫されている。	巻末の「日常生活に役立つ書式」において、レポートやプレゼンテーションなど、他教科の学習と連動した題材を提示することで、各教科等の学習活動に活用できるように工夫されている。	
(5)	毛筆の指導は、硬筆の能力の基礎を養うことができるよう工夫されているか。	硬筆で試し書きを行い、毛筆練習を行った後、硬筆で確認し、単元末で硬筆の練習をするという配置にすることで、学習内容の定着を図るとともに、硬筆の基本的な技能を定着できるように工夫されている。	毛筆の学習の後、硬筆で振り返り学習を行い、別冊「書写ブック」において硬筆練習を行うことで、学習内容の定着や硬筆の基本的な技能を習得することができるよう工夫されている。	
		文字に関するコラムや巻末に漢字一覧を提示することで、文字に関する興味・関心を高め、日常生活に生かす硬筆の学習ができるよう工夫されている。	身近な文字に関するコラムや巻末の「中学生のための漢字字典」を提示することで、文字に関する理解・関心を高め、日常生活に生かす硬筆の学習ができるよう工夫されている。	
(6)	硬筆と毛筆の分量は、適切に配慮されているか。	毛筆練習の前後に硬筆練習の欄を設けることで、毛筆と硬筆がほぼ均等な配分となるよう配慮されている。	別冊「書写ブック」において硬筆課題を豊富に設けることで、毛筆・硬筆がほぼ均等な配分となるよう配慮されている。	
		それぞれの学年における発達段階や語彙・言語環境などを考慮した教材構成にすることで、硬筆と毛筆をバランスよく学習できるようにしている。	各学年で求められる学習要素を効率よく身に付けられるように単元や教材を精選することで、硬筆と毛筆をバランスよく学習できるようにしている。	
3 学習効果や使いやすさ、見やすさ（ユニバーサルデザイン）等の観点からの表記・表現や体裁の特長				
(1)	文章は、分かりやすく、質・量ともに適切な記述となっているか。	平易で簡潔な文章表現であるとともに、運筆方法の説明などの部分では、具体的な言葉を用いて分かりやすく解説することで、理解しやすくなるよう工夫されている。	発達段階に応じた分かりやすい文章で表現するとともに、主たる学習要素は大きく丁寧に、それに付随する要素は小さく簡潔に示すことで、理解しやすくなるよう工夫されている。	
(2)	写真、挿絵、図表などは、学習意欲を高めるとともに、学習内容との関連や学習効果に十分配慮されているか。	「目的に合わせて書こう」などにおいて、書写の学びが、他教科の学習や日常生活で生かされている場面の写真を豊富に掲載することで、興味、関心を引き出し、学習意欲を高めることができるよう配慮されている。	「全国フォント見つけ隊」「全国文字マップ」など、身の回りにある文字の写真を随所に位置付けることで、興味、関心を引き出し、学習意欲を高めることができるよう配慮されている。	
(3)	レイアウトや色彩、文字の大きさ、挿絵の活用、紙質、製本等については、適切に配慮されているか。	毛筆教材は見開き2ページで構成され、右ページに半紙形の毛筆教材文字を、左ページに学習の進め方を配置することで、見通しをもって学習することができるよう配慮されている。	毛筆教材は4ページで構成され、前半2ページに学習の流れ、後半2ページに半紙原寸大の毛筆教材文字を配置することで、見通しをもって学習することができるよう配慮されている。	